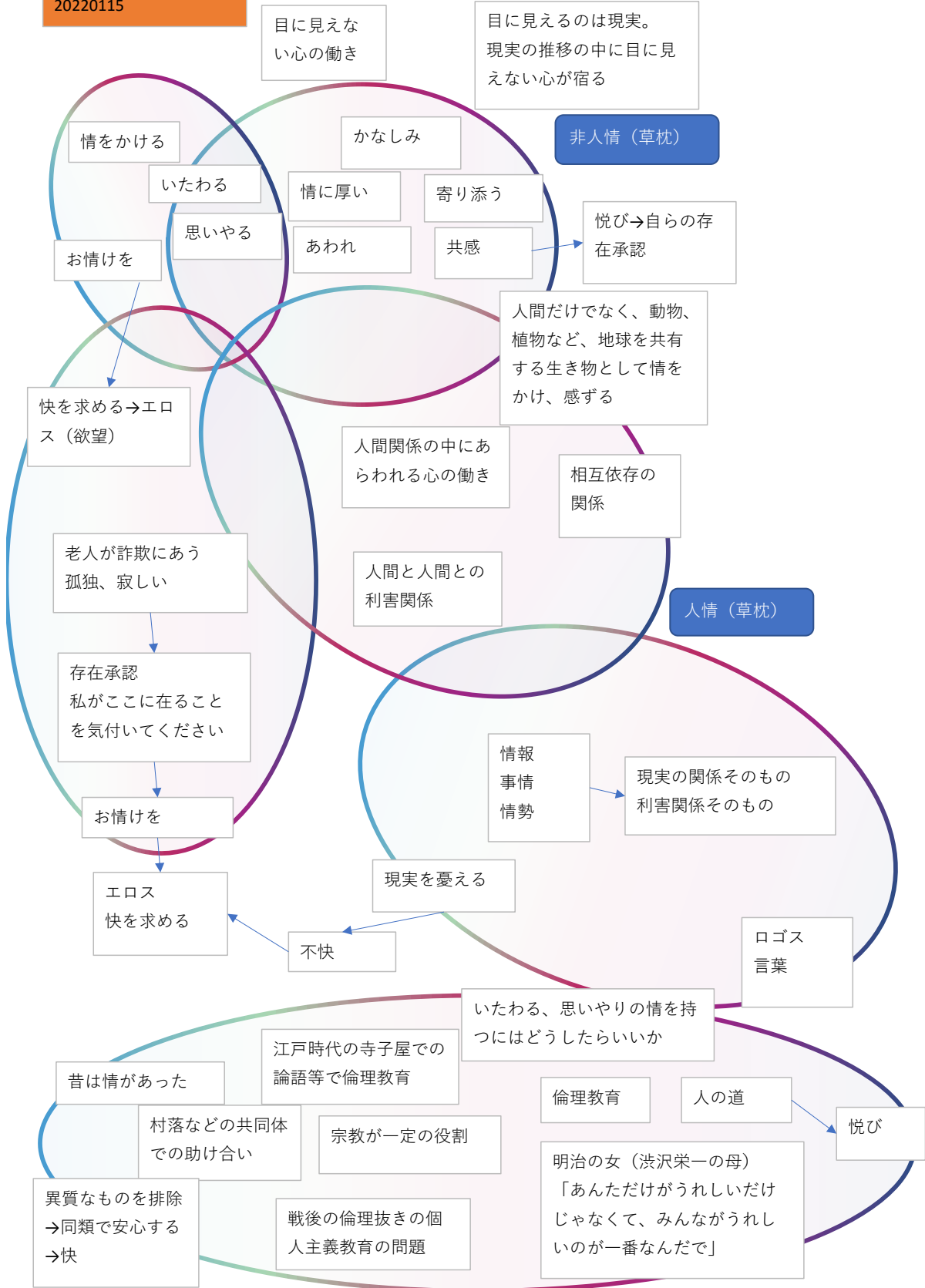
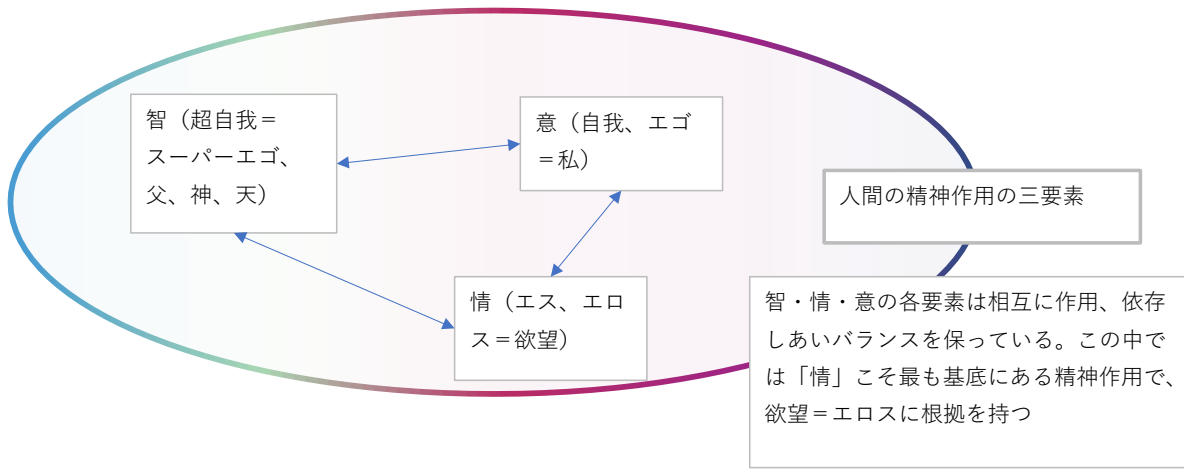


「情」について
20220115





<おまけ>

洪沢栄一『論語と算盤』より

常識とはどのようなものか

智（知恵）、情（情愛）、意（意志）の三つがバランスよく成長したものの
 人情に通じ、世間の考え方を理解し、ものごとをうまく処理できる能力
 ⇒「常識」という

「智」は物事を見分ける能力のこと

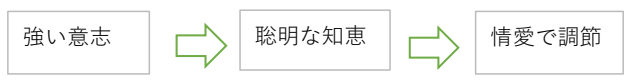
善悪、プラス面マイナス面を見抜けなければ、どれだけ学識があっても宝の持ち腐れ
 自分の利益のためには他人を蹴飛ばしても気にしない、ということも起こる
 知恵が働く者は原因結果を見抜けるため

「情」が加わることによってバランスを保ち円満な解決を与える

瞬間的に沸き上がりやすく、悪くすると流されてしまう
 喜び、怒り、哀しみ、楽しみ、愛おしさ、憎しみ、欲望⇒七つの感情

「意」意志によりコントロール

精神活動の大本
 あるべき姿、ねばならない
 動きやすい感情をコントロールする
 意志ばかりが強くて他の「情」や「智」がともなわないと単なる頑固者、強情者
 根拠のない自信、自分の主張が間違っても直そうとせず、ひたすら我を押し通す



洪沢氏の体験に基づく実践的解釈

「国家社会の利益ため」という「明治の国家主義」を体現している